



# 東京のまちづくり活動トピックス

withコロナの暮らしの中で安心して活動をするために、生協ではさまざまな工夫をしています。vol.3に引き続き、まちづくり活動の中で共有された医療生協の取り組みを紹介します。

## 東京西部保健生協

### 新型コロナに負けない健康づくりをリモートで！

新型コロナ感染症により活動自粛の中、外出や活動の自粛による体力や気力の低下を防ぎ、健康づくりを継続してもらうために、「リモートころぼん体操交流会」を6月30日から開始しました。毎週火曜日、2会場をリモートでつなぎ、参加者同士がお互いに見ながら、「ころぼん体操」「自宅でできるホームエクササイズの体験」のほか、メイン会場では体力測定も行いました。「一人でやるのも良いけど、みなさんの顔が見えるのは嬉しい！」と皆さん楽しそうに体を動かされていました。

7月22日に、和田堀診療所所長の吉沢亮平先生による「コロナって何？」学習会をリモートで行いました。参加者から「かかりつけの医師のお話を聞き、安心します」という感想がありました。

10月24日には、せいきょう診療所所長で認知症サポート医・プライマリケア認定医でもある湯浅潤子先生による「認知症よろず相談所その1」を開催しました。組合員ホールの実参加とあわせて、和田堀のオレンジカフェや自宅で参加の組合員をリモートでつないで開催しました。認知症の症状や判断基準、早期発見早期対応が大事なこと、健康管理での予防などのお話を聞き、参加者からたくさんの質問がありました。参加者から「かかりつけの医師のお話を聞き、安心します」という感想がありました。少しずつですが、感染予防対策を徹底した上で、活動を再開しています。



みんな一緒に「ころぼん体操」

## 東京保健生協

### ネットワークを活かし、コロナ禍での「困りごと」を解決！



消毒、三密に気を付けてエプロンづくり

手作りエプロンは入院患者さんの食事の時に使用されます。



新型コロナ感染症の拡大で、医療の現場では通常より多くの人員が必要となったことや、感染予防のために受診や利用を控えられる方が増えたことも影響し、医療事業経営の面では大きな打撃を受けています。そうした中、職員と組合員が共に知恵を出し合い、力を合わせて行動しています。組合員同士で声掛けを行い「困りごと」を聞き取って組織につなげて解決につなげたり、大泉生協病院の入院患者さんが、飛沫防止や汚れ防止のために毎日使用する使い捨てエプロンの代用として、45ℓのビニール袋で作る「手作りエプロンづくり」の活動が各支部に広がり、大泉生協病院を支えています。

福島を忘れないための活動として行っていた原発事故の被災地訪問が中止となり、今年は3会場をオンラインでつないで、原発事故被害者の会の代表からお話を聞く学習会を10月に開催し、福島に心を寄せ合いました。



リモートで学習会に参加した会場の様子

## 城南保健生協

### 「大森東子ども食堂」をフードパントリーに変えて再開！

城南保健生協組合員、職員と城南福祉医療協会・城南医薬保健協働の職員、OBで取り組んでいる「大森東しあわせ食堂」は、7月からフードパントリーとして月1回の活動を再開しました。大田区社協を中心に多くの団体・個人から寄せられた食材を小分けにセットし、城南保健生協の本部事務所で渡しています。コロナ前の子ども食堂では、多い時には約90名の参加者で賑わっていましたが、現在は食材のセット数に制限があるため、事前予約を含めて毎月約40セットを配付しています。

また、初の試みとして、秋の強化月間に向けてのスタート集会を診療所会議室と個人宅など25会場をつないでオンラインで開催しました。参加した方からは「新鮮だった」「一つの会場に集まらなくてもできるので気軽でいい、月間の途中にも報告会をオンラインでやってほしい」と好評でした。



50セット限定のフードパントリー。事前予約は30名くらいいます。

ぷちとぴっくす

東京ほくと医療生協がLINE公式アカウント「ほくとLINE」を開設しました。「コロナ禍の中でも仲間とつながり情報を共有する」ために、定期的に健康情報や地域の組合員活動情報などを発信し、コミュニケーションに活用しています。また、「スマホ講座」を開講するなど、より多くの仲間がつながれるよう職員と組合員が力を合わせて頑張っています。現在では150名の友だちの輪が広がっています。

東京ほくと



ほくとLINE  
へようこそ

